

## 令和元年 10 月 3 日 市長定例記者会見 会見録

### 【司会】

ただいまから、市長定例記者会見を開催いたします。先ほどご案内しましたとおり、本日もライブで配信をしております。本日は案件がございませんので、記者の皆さんからのご質問をお受けしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

さっそくですが、幹事社さんの方からよろしいでしょうか。

### 【読売新聞】

幹事社の読売新聞です。よろしくお願いいたします。

厚生労働省が9月26日、再編・統合の検討が必要だとして公立・公的病院の実名を公表しました。市内では4つの病院が含まれていたことについての受け止めと、今後の静岡市内の地域医療に対する市の考えをお聞かせください。また、本件に関する具体的な検討が始まっているのであれば、その点についてもお教えてください。

### 【市長】

はい、これ、全国一律にね、発表をされたということですけども、私、現場を預かる人間とすると、地域の実情、もう少しそれぞれ地域、異なった事情があるというふうに思っていますので、それを尊重した上でこれから取り組んでいただきたいなというふうに思っています。

2025年に向けて地域ごとで効率的で不足のない医療提供体制を作る。このことは絶対必要だというふうに思います。そういう意味では地域医療の安定確保のために静岡保健医療圏における医療提供体制のあり方については、今回の厚労省の資料も参考にしながら、市内の医療関係者で議論をしてもらっておりますので、地域医療構想調整会議という名前です。名前ですけどもね、この会議を通じてね、関係者の皆さんの議論をまとめていきたいなと、参考にさせていただきたいなというふうに思っています。

### 【司会】

よろしいですか、はい、ありがとうございます。それでは各社さんからのご質問をお受けしたいと思います。静岡朝日テレビさん。

何かありますか。幹事社の別に、関連問わず、はい。

### 【市長】

まず幹事社質問を、今日、話題がなくてやったわけだから、やっぱりそれについてやったほうが順番としてはいいんじゃないかな。

【司会】

はい。NHKさん、どうぞ。

【NHK】

失礼しました。NHKです。今の話題についてですね、地域の事情があるのでそれを尊重した上で取り組んでいただきたいという、これ厚労省に対するメッセージかと思いますが、一方で地域医療構想実現は、市も県内で唯一、市単独で二次医療圏を持つ立場として調整会議のメンバーでもありますし、主体的に取り組む立場かと思いますが、この市の役割について特に2050プランがですね、各病院、病床稼働率80%とか掲げていながら、それが実現できそうになかなかない。いわば国に突っ込まれる余地を与えているという状況があるわけですが、これに対して市として何か主体的な取り組み、あるいは病院がプランを実現するための行政支援など、何か役割は、果たさなければいけないことは、何かお感じではないのでしょうか。

【市長】

そこがすごく大事な論点だと思うんですね、結局、人口減少時代に、どう対応していくかということに今回の厚労省のね、発表もあろうかと思えます。これは医療体制だけではなくて、私たちが連携中枢都市圏ということ国から進められているというの、フルセット主義のこれから公共投資であるとなかなか難しいと。国の借金ばっかり上がってしまうと。今回このことについては医療費抑制という観点があるかということですね。それに対して、しかしながら、私たちは公的病院という機能は欠かすことができない地方創生の流れの安心・安全な社会を作るファンダメンタルでありますので、そのところをどういうふうに行行政としてね、自分たちの持っている市立病院だけではなくて公的病院として、どう“ワン・フォー・オール、オール・フォー・ワン”ではないけれども、そういう体制をこれから作って行かなければいけないというふうには私考えています。そういう中で葵区、駿河区、清水区という緊急医療体制、いろいろ皆さんの中でも議論があるところですのでね、オール静岡市でその体制を作っていくために、私たちも下支えをしていきたいというふうに思っています。

【NHK】

その中でもう少し伺いたいのが、地域に異なる事情があるとおっしゃいましたが、具体的に今回の厚労省の基準と発表が、どういう点で地域の実情を反映してないとお感じかということと、私、取材している限り、4病院の病院長4人にお話を伺いましたが、厚労省のやり方はとにかくダウンサイジング含めた方向性は、議論はしなきゃいけない、それは分かっていると。桜ヶ丘病院の相川院長も私どもの取材にダウンサイジングを一つの選択肢つとして、移転に絡めてと思います、検討していくと、これ明言されています。そういった方向性については、これは必要なことだろうと市長もご認識なんではないでしょうか。

【市長】

総論としては必要だと思いますね。そここのところにやっぱり相川院長がやっぱり十全のね、自分の理想の病院、これから作っていききたいという気持ちで静岡に着任をしてくれましたので、私たちはどう支援をしていかなきゃいけないんだろうなというふうに思っています。例えばの話で地域の事情として私たち清水区のね、救急医療体制が脆弱じゃないかと、葵区の病院にかなり負担がかかってしまっているんじゃないかというような課題があります。そここのところを是正していくためには、やはり桜ヶ丘も含めたね、清水区の総合病院の緊急医療体制というものをやっぱり充実していかなきゃいけないと。そして、オール静岡市として市民の安心・安全に役立てていかなければいけない。これが例えばの地域の実情だろうと思っています。

【NHK】

重ねて伺いますが、桜ヶ丘病院移転にあたって相川院長おっしゃるようにダウンサイジングを一つの選択として、つまり 199 病床をこのままで移転することとは決めずに議論していくということは、これは必要なことだと思っていますか。

【市長】

はい。そのあたりは先日、私、JCHOに訪問した時、尾身理事長ともね、話をしたところです。やっぱり地域医療構想の件は、尾身理事長もたいへん問題意識として持っています。全国的な流れとしてのね、ダウンサイズを考えないといけない、医師の確保をしていかなきゃいけないと。しかし、こういうね、今、プロセスの中にある以上、桜ヶ丘病院を存続をさせて 150%とにかく移転、早期開院をしたいという気持ちは変わっていないということでしたのでね、そんなことを我々、官民連携して頑張っていきたいなと思います。

【NHK】

もう一度、テレビの都合で教えてください。

【市長】

テレビの都合って、短く？

【NHK】

はい。市長の言葉としてダウンサイジングは、これは必要な議論だと桜ヶ丘病院についても認識されているかどうか、お考えをお聞かせいただき、もう少し伺いたいのと、それとその議論の中でちょうど昨日、風間議員が色々指摘されていましたが、これだったら移転が必要ないんじゃないかと、そういった議論に影響してくる恐れが出てこないか、このあたりお考えをお聞かせください。

【市長】

ダウンサイジングうんぬんは、清水桜ヶ丘病院が決めることであります。その経営主体としてのJCHOがどういふ新しい清水の桜ヶ丘病院を作るのかということについて、早く発表していただきたいなということを、私はお願いをしています。

【NHK】

移転計画に影響を与えるということはないかということと、ダウンサイジングも含めた議論は、市としては辛い、やめてほしいという立場ではないということですか。

【市長】

そうです。それは同時平行にやっっていかなきゃいけない。大きな国の流れと清水特有の行政課題を両立していかなければいけないということですね。ですから私はあくまでも市長という立場なので尾身理事長、JCHOの理事長がとにかく清水の桜ヶ丘病院は早く移転したいんだよと。そして橋頭堡を作りたいんだよというふうにおっしゃってくださいました。ですから、その中で新しい病院を作られるような環境を作るというふうには私は考えていますし、またそのスペックについてはJCHOが経営主体としてどのぐらいのサイズでの病院を作っていくかということは、彼らが経営者でありますので委ねたいと思っています。

【NHK】

確認ですが、移転計画に、風間議員がおっしゃったような現地建て替えや桜ヶ丘公園ということじゃなくて、清水庁舎跡地にというこの計画に影響を与えるものではないというふうにご認識なんでしょうか。

【市長】

はい。

【NHK】

ありがとうございます。

【司会】

ありがとうございます。その他、幹事社質問への関連ございますか。よろしいですか。

【市長】

JCHOが望んでいるわけですからね、あそこで。あそこで土地を提供してくれるんだったら清水を存続させると。撤退、整理・統合の対象にしないということでもありますね。そこが原点ですね。

【司会】

毎日新聞さん、関連ということで。はい。

【市長】

ウエルカムバック。

【毎日新聞】

すいません。関連なんですけれども、確認なんです、厚労省からの病院名が発表された後に桜ヶ丘病院の院長さんにご面会されたってということなんですか。

【市長】

まだ面会できてないです。

【毎日新聞】

なるほど。先ほど一度最近お話ししたけれどもってのは・・・

【市長】

JCHOの理事長と話をした、尾身理事長と話をした、東京でね。

【毎日新聞】

その段階では、病院再編等も、病院移転計画に影響を与えるものではないと確認されたということですね。

【市長】

はい。

【毎日新聞】

はい、承知しました。ありがとうございます

【司会】

それでは各社さんの質問を改めてお受けしたいと思います。はい、静岡朝日テレビさん。

【静岡朝日テレビ】

静岡朝日テレビです。よろしくお願ひします。清水庁舎移転問題について伺いたいんですが、先日9月の28、29日に市内全域1,000人、およそ1,000人を対象に世論調査を弊社で行いまして、その結果によりますとですね、(資料を見せながら)もし、ご覧いただければなんですが、ちょっと難

しいですか。お伝えします。

清水庁舎移転について 57%が反対、住民投票を実施すべきという項目に対して 64%が実施すべきと。市長は反対派と会うべきというのが 80%という結果になりました。市長選で信任を得たというふうにおっしゃっていましたが、この結果を見るととても信任を得たとは言い難い結果だと思うんですが、いかがでしょうか。

#### 【市長】

その結果初めて知りましたが、今後の参考にしていきたいなと思っています。ただし、私が市議会でね、答弁をしたとおり、防災の観点もちろん大事だけでも、高齢化の観点、経済の活性化の観点、そして観光政策の観点で、どう清水を活性化していくか、そして住みやすい街にしていこうかということで大局的に、そして中長期的にこのことを考えていかなければいけないと。ですので、その中で導き出した結論が今回の庁舎の移転ですね、そのことをやっぱり、まだまだ市民の皆さんにはちゃんと私の口から説明をしていかなければいけないなというふうに、今、感じています。

#### 【静岡朝日テレビ】

市長の口からとおっしゃっている中で、住民の不安というのは防災面の不安が一番大きいと思われるんですけども、その件に関して議会でもなかなか直接市長が答弁するというケースが少なかったと思うんですね、このあたりはいかがですか。

#### 【市長】

議会で今回、思いの丈を初日にお伝えをしたつもりですのでね、それをぜひ報道をしていただきたいなというふうにお願ひいたしますし、多角的に、今、もう一度申し上げますけど、防災の点も必要。だから、私の口だけではなくて情報発信しなきゃいけないということで、広報静岡でも3カ月連続で防災に強い拠点にしていこうということをちゃんと記事にして、市民の皆さんに理解していただきたいというキャンペーンもしております。ご覧になっていただいたと思いますけどもね。

と同時に私、選挙のときにいろんな市民の皆さんの声を聞いています。合併して人の流れが呉服町や静岡の方へ行っちゃっているんじゃないの、清水の中心市街地シャッター通りになっているから、もう少しね、人の流れを呼びたいよということを、もう、ずいぶん言われました。これも大事です。また、アクセルとブレーキを踏み間違える高齢者ドライバーの事故が相次いでいます。自家用車や車にね、頼らずとも地域の個店にアクセスできて、そこで生活が便利に過ごせるという、いわゆるコンパクトシティを作っていかなければなりません。そういう総合的な観点、防災はその一つということでトータルに考えていくという報道をぜひ心がけていただきたいなということをお願いします。

#### 【静岡朝日テレビ】

今回、8割の方が反対派と市長は会うべきだという結果になりましたけれども、市長は歩み寄りがなければ会わないというような、逆に言うと歩み寄りがあれば会うというようなお話しもされていただけ

れども、反対派と市長が会わないという姿勢がこの結果につながったんじゃないかなと思うんですが、いかがでしょう。

【市長】

そうですね、今後の参考にしたいと思います。

【静岡朝日テレビ】

というのは、今後、会う可能性があるという・・・

【市長】

それは今、朝日テレビさんがおっしゃったとおりだと、私も思います。

【静岡朝日テレビ】

というのは・・・

【市長】

今後の参考にさせていただく。

【静岡朝日テレビ】

おっしゃったとおりというのはどういうことですか。

【市長】

つまり、私も庁舎を移転をするということについてご理解をいただいていると。そこに絶対反対だという立場だと、私ではなくて担当者が話をしてくれている。いつまで経ったって、私が行ったって平行線ですよ。そうではなくて防災の面で心配ならば、いろいろ庁舎に対してご意見を、ご提言、ご提案いただいて、もっと強い庁舎にしたらというような、そういう観点からね、またいろいろご提案いただければね、わかりましたということもあるかもしれません。

【静岡朝日テレビ】

市長が直接説明されるということが、反対派に説明されるということが静岡市全体へのメッセージにもつながると思うんですが、それがチャンスとも取れると思うんですが、そこを自らやらずにというところで逆に市民が離れていってしまっているという面はありませんか。

【市長】

おっしゃるとおりですね、チャンスは活かしていきたいと思っています。

【静岡朝日テレビ】

というのは、会うということですか。

【市長】

チャンスは活かしていきたいと思っています。

【静岡朝日テレビ】

その具体的な思いを聞かせていただけませんか。

【市長】

とにかく、やっぱり私たち民意をね、リードをしていかなければいけないと思います。昔、論語でした？「新聞は社会の木鐸あれ」、やっぱり報道機関というのがディティールに立って、コメンテーターとか、アンカーマンとかあって、民意はこうだよ。でも、こうあるべきなんじゃないかなというような報道をされていると思います。やはり民意はやっぱり先ほどの数字を受け止めなければいけないんだけど、民意をリードするという役割も必要だと思います。私は信念を持って今回、不転の決意で清水の庁舎を駅前に移転をします。そしていつの日か、これで清水がね、活性化されたんだと、あの時は反対だったけれどもこれでよかったんだなというふうに思ってもらえる日が来ることを夢見て、今説明をしていきたい。その私の気持ちに折り合う中で、今は反対の皆さんもね、向かい合っただけならばね、私はいろんな選択肢があろうかなというふうに思います。

【静岡朝日テレビ】

いろんな選択肢というのは会うという選択肢もということですか。

【市長】

もちろんです。

【静岡朝日テレビ】

もう一遍ごめんなさい。住民投票に関してなんですが、6割以上の方がするべきだという結果になりましたが、今、署名活動等、住民の動きがありますけれども、この点に関してはいかがですか。

【市長】

私は住民投票という制度が法令等で担保されている以上、それを尊重するし、その推移を見守っていきたくと思っています。しかし、市長の発意としては、もうこれは考えに考えて庁舎を移転をするという決意で今回の市議会に条例案を提出をいたしましたし、また清水の活性化待ったなしであります。先ほどの声がある、私、清水可能性あると思うんです。で、これ今までバラバラだった計画を一つ、県や民間と一緒にあってランドデザインを120周年に間に合わせるような形で今回策定



をしました。そのリーディングプロジェクトの一つがこの庁舎の移転なんですね。そして、江尻地区にフェリーをつけていく、そして、日の出地区にはインバウンドとしての海洋文化施設を作っていく、そして、みほしるべができましたけれども三保半島から折戸の開発をしていく、あるいは興津の中部横断自動車道の開通を追い風にしながら海釣り公園の整備、いわゆるビーチバッグを作っていくと。こういうひとつの全体のランドデザインの中のリーディングプロジェクトの一つがこの庁舎の移転というところにあるわけですから、これは私は市長として歴史を前に進めていきたいというふうに、腹を括っています。

【静岡朝日テレビ】

この結果を受けてみると静岡市民というのはもっと市長が反対派と向き合ってもらいたい、もっと防災面に関しても議会でも活発に発言してほしい、市長から発信してほしいというところもあると思うんですが、改めていかがですか。

【市長】

わかりました。そんな決意で望みたいと思っています。

【静岡朝日テレビ】

今までのスタイルを変えていくという・・・

【市長】

今までも丁寧だね、色んなところに出向いてきました。公務、政務・・・

【静岡朝日テレビ】

今までのスタイルでは反対派とは会わない。議会でも・・・

【市長】

静岡朝日テレビさんね、そこにこだわるけど、そこだけではないと思うんです。そこだけで報道されると私も切ない、辛い。ぜひね、報道機関として民意をリードするような報道をしていただきたいなということをお願いします。

【静岡朝日テレビ】

報道機関としては、会うことはできるんじゃないかなと思うんですが。

【市長】

わかりました。今日は受け止めさせてください。

【司会】

他にいかがでしょうか。静岡第一テレビさん。

【静岡第一テレビ】

今、朝日さんにもあった、あるんですけども、反対派の住民の8団体が、先ほど市長あてに要望書を出したんですね。その方、市長と会いたいという意思もありました。で、すいません。改めてなんですけれども、素朴に会わない理由っていうのをもう一度お聞かせください。

【市長】

平行線のままの議論ではこれは前に進まないと思います。で、僕は2年前にやはり要望をいただいて、反対だという方々の要望いただいて、1年間、間をあけて市民の皆さんを対象にしたタウンミーティングを清水区で集中的に開催をしました。そこでも一生懸命、説明をしました。そういう経緯があって今だということを、ぜひご承知おき、お願いしたいなというふうに思います。

【静岡第一テレビ】

一点だけお願いします。会いたいという要望がまだあると。で、先ほどと同じ質問かもしれませんが、会う可能性はありますか。

【市長】

もちろん、先ほど記者さんにお答えしたとおりです。

【静岡第一テレビ】

会う可能性、わかりました。ありがとうございます。

【司会】

いかがでしょうか。

【SBS】

SBSテレビです。2点お伺いしたいと思います。

愛知県岡崎市のですね、社会福祉法人が運営する市内の特別養老養護老人ホームについてなんですけど、経営難を理由に廃止の恐れがあるということなんですけれども、もしそうなれば入居する130名あまりの方々がですね、行き場を無くしてしまうことになります。このことについて、市の受け止めとですね、入居者の方々への対応があれば進捗状況と併せて教えてください。

あと、重ねてもう一点すいません。関係者によるとですね、施設ではこの夏エアコンが壊れたまま使えないですとか、明日にも食事が止まってしまう、滞ってしまうという話も聞かれています。入居者の方々の命に関わる重要な問題だと思いますけれども、こうした皆さんとも取れる運営側に対して、

市として指導など、もし対応を検討されている部分があれば教えてください。

**【市長】**

まず、おっしゃるとおり命に関わる問題ですので、入所者の安心安全を確保する。これが私達行政の最も大事な責任だというふうに思っています。その観点から、保健福祉長寿局 介護保険課長を中心に、今、懸命にそのバックアップをしているということでもあります。市内で入所者を受け入れてくれるところがあるかということ、電話をかけまくってね、確保に奔走をしてくれておりますし、また、県の担当課とも連絡を取って、市内でのみならず市外でね、例えば焼津、藤枝等々にもね、そういう受け入れ施設がないかというようなね、県も取っております。

あんまり遠くに行ってしまうと、今、三保にあるという施設の中で、家族の皆さんのこともありますのでね、難しいのかもしれませんが、でも、それがまず一番、私達行政が、今しなければいけない支援の方法だというふうに思っています。法人の今後の展開は日々状況が変わり不透明ですけれどもね、愛知県に本部を置くところでもありますので、しかし、今そのところは、所管の愛知県庁がどんな判断をその法人にされるのか、見守っていききたいなと思っています。

**【SBS】**

すみません、重ねてで申し訳ありませんが、今、県とも連携ということですがけれども、この問題に関しては、市が中心となって対応していくのか、それとも県の問題なのか、不勉強で、その制度のこともあると思うんですけど、そこを改めて教えて頂きたいのと、もし進捗みたいな具体的な数字があれば教えていただきたいです。

**【市長】**

具体的な数字については、担当の方からの後ほど報告をしてもらいますけれども、主体となるのは市です。私達がやっぱり、一番、市内の身近な社会福祉法人との関係がありますので、そこに受け入れてもらうという責任を持って、それで埋まらなければ県にもお願いをするという順番なんだろうなというふうに思います。

具体的にどのぐらい今、受け入れ先を確保しているかということについては、担当の課長の方から少し報告をお願いしたいなというふうに思います。

**【高齢者福祉課長】**

高齢者福祉課長です。今の時点、これは 30 日時点で、今日また新しく各施設に聞いているところですが、この 30 日時点の数字です。特別養護老人ホームが 51 名分空けることができると。老人保健施設が 85 名分受け入れができるということで、合わせて 136 空いております。この3施設の入所者、133 ですので、単純に言えば確保はできているということになると思いますが、そんな簡単ではないというところがあると。以上です

【SBS】

全て市内の施設ということでよろしかったでしょうか。

【高齢者福祉課長】

はい、今申しあげましたのは市内の施設です。県の出してきた施設はこの時、7ベッド分ということで聞いております。

【SBS】

すいません、最後一点だけ、運営側に対しての対応について、愛知県に本部を置く施設ですので所管の愛知県庁が判断するというお話でしたけれども、すいません、この問題については運営側に対しての指導ですとかっていうのは市としては手が出せないということなんでしょうか。

【市長】

本当に道義的に許せないと思いますよ、私は。経営者としての責任をどう感じているのかというふうには、本当に憤っています。経営者に対して、理事長に対して。ただ、聞いてみると理事長があて職で当事者能力を持っていないということも聞いております。結局、今どういう状況になっているかというと、現場の介護の職員が本当に一生懸命頑張ってくれていると。給料がもらえないかもしれないのに。しかし、現場で入所者の皆さんのお世話をやっていた、そういう職員がいるわけですね。そういう職員を見捨てるようなね、経営陣であるということに対して、たいへん私は憤っているということだけお伝えしたいと思います。

【SBS】

ありがとうございました。

【司会】

はい、どうでしょう。NHKさん以外いらっしゃいますか。先に伺いたいと思いますが。

はい、静岡新聞さん。

【静岡新聞】

先ほどの8団体が、今日は午前10時半に要望書を出した件に戻っちゃうんですけども、その中で8月19日の15時に、市長と面会がセットされていたけれども、面談の予定時刻に市長が外国の団体の訪問があるとの理由で、それが中止になったと。ただ、その8団体の方たちが調べたところ、外国の来客があったことは事実だったけれども、表敬訪問を受けたのは副市長であり、市長が参加したのは夜の歓迎会だったと。で、その8団体側に嘘の説明をしたっていうようなことを言っていたんですが、そのへんの実事関係を教えていただきたいんですが。

【市長】

午前中どんな要望があったのかという内容については、まだ私のところに詳細報告がありませんので、そここのところはこれから、また先ほどの議論にもあったように、考えていきたいなというふうに思っています。また、当日も、その詳細については現場に任せてあります。私たちの実務の担当者と、8団体の皆さんと調整をしてくれた。ただ、やっぱり平行線になるような面会ではなくて、やはりそれぞれ譲り合って合意を見い出せる、みんなでやっていこうというような面談にしたいという意味も含めた調整が叶わなかったというふうに私は承知しています。

【静岡新聞】

市長が先ほども、今後面談しない理由って言うのはよくわかるんです。となると、この最初の面談をしなかったっていうのも、その予定が入ったからではなく、議論が平行線になるからっていう理由も含まれているっていうことなんですか。

【市長】

私、予定もあったんですよ。あったんです。なので、私、忙しい中でも会うよっていうような気持ちもありながらね、最終的に実務で調整をしてくれたので、それを私は尊重したということで、8団体の方も納得をしてもらっているというふうに思っていました。

【静岡新聞】

予定もあったってことは、その時、会う、会わなかったっていうのは予定が理由なのか、今、市長が言った平行線のほうが理由なのかっていう、どっちが理由になるんですか、当日の。

【市長】

どっちもじゃないですか。

【静岡新聞】

どっちもでいいんですか。そうすると予定はあったけれども、平行線も、どうしても会わなきゃいけないような予定、相手だったら会っていたっていうような、そういうニュアンスなんですけど。

【市長】

そうですね。これ、議会でも答弁をしたとおり、最終的な調整が叶わなかったので会えませんでしたと、私、答弁をしたと記憶しております。

【司会】

先ほど申し上げましたとおり、支局長懇談会は今日いつもより15分早まっておりますのでね。45分スタートになりますので、皆さんご協力をお願いしたいと思います。

NHKさんどうぞ。

【NHK】

たびたびすみません。庁舎移転の話に戻らせていただきますが、先ほど静岡朝日テレビさんの質問に対して、移転については地域活性化もトータルに考えているという報道を心得てほしいという、報道に対するご注文も、これ前回、私に対してもいただきましたけれども、市長のお考えは、経済的な活性化のメリットが大きければ、防災面多少のことは目をつぶるべきという考え方に立ってほしいということなんでしょうか。

【市長】

そんなことはないです。

【NHK】

トータルに考えてほしいというのは、どういうことですか。

【市長】

防災も大切、経済も大切、高齢化も大切、インバウンドも大切というトータルに清水の活性化をどう考えていくか。港町から発展してきた清水は、中心市街地が全部津波想定域であります。しかしながら、ここのところをどう活性化していくか、歴史的な合併をして、人が呉服町の方に流れてしまっているのではないかというような数字が出ている中で、どう清水に人の流れを呼んでいくか、清水の発展なくしては静岡の発展なしと答弁をさせてもらいました。その観点からこういう結論になったわけだし、ランドデザインもできているわけです。

【NHK】

わかりました。

あとですね、私が前回、伺ったこととも関係しますけれども、津波被災後の新清水庁舎の機能について、前回、私が漂流物やもしかしたら気仙沼みたいに火災の起きている恐れもあるという中で、災害対策本部をどうするのかという質問に対して、ご担当のほうから、消防署に本部を移すからというご回答ありましたけれども、昨日の統括監の議会での答弁の中では、通常業務に今の清水庁舎だと通常業務に支障が出て、罹災証明の発行などできないのでというお話がありましたが、これ、つまり罹災証明の発行など被災後の業務については、どのような被災があっても、新清水庁舎で継続して、そこに市民に来てもらうということなんでしょうか。

【市長】

私たちにとってね、3.11 っていうのは本当に痛恨の出来事でした。港町清水にとってはまちづくりを進める上でたいへん痛恨の出来事だったというふうに私は思っています。その歴史にも向き合っ

ていかなければいけないだろうというふうに思っています。

合併して16年、7年が経とうとしております。やはり、その中で、どうしたら清水も合併して良かったかという観点から、ずいぶん清水区に対して私の前の小嶋市長の時代から公共投資をしてきました。学校の耐震化もそうだし、興津川がすごく水枯れをするということで、安倍川からのパイプライン、そして清水のごみの工場の問題が賛否両論でしたので、それは全部、旧静岡市の西ヶ谷と沼上で引き受けるよと。清水に新しく作る必要はないよと。そういうことで合併効果というものをどうやって作っていくかということに腐心をして、そのために合併をした自治体に対して、特例的に認められた合併特例債もふんだんに使いました。その一つの耐震化とか、水道管、目立たないけれども、とってもシンボルティックにわかりやすいのが、コンサートホールの移転建設だったんですね。つまり公共ホールです。それまで旧清水市には今の桜ヶ丘高校の、清水市民文化センターという、とても老朽化の進んだ800席ぐらしか収容できないコンサートホールしかなかったんですね。

でも、やはり立派な音楽ホールを清水でも欲しいという要望が合併に関わる方々から浮き出てきたということで、マリナートの計画が出てきたわけです。

よし、じゃあ特例債を使ってマリナートやろうじゃないかといって候補地として出たのが、駅の近くの方がいいよね、雨に濡れないで行けるのがいいよねといって、あの立地の中でマリナートの建設計画が進んだわけです。すごく関係者の方々、喜んでくださいました。そして、今だって稼働していますけれども、たいへん稼働率が高い運営をしてくれていますし、またアーティストの方々にも音響がとってもいいということで好評であります。

あれは3.11の前に計画着工までいったから、あそこになんの反対運動もなくできたわけですね。ただ、もしあの着工が1年遅れたら、マリナートも反対運動にさらされたと思います。あんな津波想定域の近くにコンサートホールを造るなんてどうしたことか、音楽を楽しんでいる間に津波がきたらどうすんだと、1,500人の方々というふうに言われたんでしょう。

だけど、幸いその前にあの整備ができたということだったので、今、皆さんにたいへん活用してもらっている。だから、本当に3.11ということがあり、脳裏に焼きついているわけですよ。あの津波見てたら怖いという感じね。ですから、これは県が防潮堤を造る、我々は強い建物を造るという連携の中で、全体が津波想定域の清水都心をどうしていくかと。それとともに日々の暮らしをどう便利にしていくかということを両立していくということが、今、私に問われている責任だろうというふうに思います。ですので、3.11ということの中で、やはり防災に対する関心が非常に高いということは、先ほどの皆さんの質問で私も承知をしています。そこのところも、ちゃんと丁寧に説明していきたいと思っています。

#### 【静岡朝日テレビ】

(マイクが入っていないのではっきり聞き取れず)

#### 【市長】

もう少し丁寧に説明しますと、マリナート今すごくね皆さんに活用されていますけれども……

【静岡朝日テレビ】

(マイクが入っていないのではっきり聞き取れず)

【市長】

もちろん、もちろん、そうではなくて私の申し上げたのは、あれが計画段階にあって、あそこに移転をしますという発表を、もして、それが3. 11 の後だったら、あそこに作るべきではないという運動になったと。

【静岡朝日テレビ】

そうしたら、現時点ではあそこは危険な地域になるというリスクを抱えているわけですね。それをどうするかというのを考えるべきであって、改めて清水庁舎の防災面を、どう市民に伝えていきますか。

【市長】

先ほど申し上げたとおりです。

【NHK】

すみませんあと3分あると思いますので…

【司会】

すみません、45分には始めたいと思いますので。

【NHK】

わかります。私の質問に端的に答えていただければ結構です。通常業務が被災後できなくなるから清水庁舎を移転する必要があるということは、被災後に新清水庁舎においては、下で漂流物が流れているようが、火災が起きているようが、大津波警報が発令され継続されているようが通常業務を続け、罹災証明書もそこで発行するから、市民にそこに来てくださいということなのかどうかをお答えください。

【市長】

それはこれからのケースで実務的に検討していきたいと思っています。トータルで。

【NHK】

そこらへんが実務的にまだ検討されていないということで理解してほしいですか。

【市長】



はい。

**【NHK】**

わかりました。ありがとうございます。

**【市長】**

何か補足があれば。

**【公共資産統括監】**

私が昨日答弁させていただいた意味は、建物単体の話ををさせていただいているものですから、今の庁舎と新しい庁舎の建物単体で比べた時に、大きな地震、被害を受けるとですね、そこで業務が継続できなくなりますということで建物自体のお話をさせていただいたと思いました。以上です。

**【司会】**

そこのところのご理解をお願いしたいと思います。以上で本日の定例記者会見終了させていただきます。次回、10月25日、金曜日の午前11時になりますのでよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。